

# 東アジア・サマースクール2019 募集要項

申込期限：2019年6月21日（金）



近年、グローバル化の進展により、世界は大きな転換期を迎えています。

特に、東アジア地域は世界経済に大きな影響を与える規模に成長していることから、互いの海外貿易のみならず、教育研究、自然災害対策等さまざま分野での連携、持続的発展に向けた施策への対応を進めていかななくてはなりません。

次代を担う人材は、東アジア諸国の歴史や文化、政治経済、社会事情等のリベラルアーツを学び、各国の共通性や相違点を理解することが必要です。若い世代が国を越えて対話し、相互交流を図ることが、東アジア地域における一体感を高め、互いの利益につながる施策を実行することに繋がると考えます。

奈良県の持つ歴史的、文化的特色を活かしながら2011年より実施している「東アジア・サマースクール」を継続的に行うことにより、東アジアの次代を担う人材の育成に取り組みます。

## ご挨拶



第79代内閣総理大臣

東アジア・サマースクール名誉塾長

ほそかわ もりひろ

細川 護熙

将来の東アジア地域の発展をリードしていくためには、グローバルな視点で考え行動できる人材を育成することが必要であり、若い世代が対話や相互交流を通して歴史・文化などの共通性や相違点を理解しあえる機会を設けることは大変意義深いことです。

奈良は、日本が国づくりを進めた6世紀から8世紀に首都「平城京」がおかれた地であり、中国や韓半島から技術や文化が伝わり、国づくりのための基礎が創られました。

そのような歴史を持つ奈良県が「歴史」への感謝を込めて開催する「東アジア・サマースクール」において、東アジアの未来を担うみなさんが、東アジア各国の相互理解を深めて多くを学ぶとともに、将来に繋がる互いのネットワークを形成し、成長することを期待しています。



奈良県知事

東アジア・サマースクール名誉塾長

あらい しょうご

荒井 正吾

2011年より開催している「東アジア・サマースクール」は、グローバル社会における東アジアの発展を目指し、次代を担う人材の育成や交流を目的として実施しており、今夏で9回目を迎えます。

本スクールのカリキュラムは歴史・文化、環境や医療など多岐にわたり、各分野に精通された講師陣による講義のほか、県内の文化遺産に触れたり、生活文化を体験したりする視察研修、受講生によるレポート作成や成果発表など充実した内容となっています。

この「東アジア・サマースクール」に東アジア各国から多くの若者にご参加いただき、活発な知的交流から、相互の文化への尊敬を生み出し、将来の東アジアの発展に寄与できる人材になってもらいたいと考えています。



奈良県立大学学長

東アジア・サマースクール塾長

いとう ただみち

伊藤 忠通

東アジアの国々から受講生をお迎えして開催される東アジア・サマースクールでは、受講生のみなさんの積極的に学ぼうとする意欲と各分野の優れた講師陣の熱意溢れる講義などを通じて、アジアの未来を担う若い人たちの交流が行われます。

このサマースクールで歴史・文化・政治・経済・社会保障など幅広い分野について見聞を広められ、多様な価値観を持つ人々との出会いを通じてグローバルな視点から東アジアの未来について考え、行動するヒントを得られることを期待しています。

2週間の短期プログラムですが、その内容は充実しており、サマースクールで経験する「知の交流」と「心の交流」は、きっと受講生のみなさんと東アジアの国々の未来にとって有意義なものになると信じています。

# 1. 開催概要

実施時期：2019年8月18日(日) ～ 8月30日(金) の13日間  
 実施場所：奈良県立大学(奈良市)を中心とした奈良県内の各地域や寺社仏閣等の施設  
 主催：奈良県・奈良県立大学  
 募集人数：45名程度  
 受講対象：日本国内外の大学生・大学院生、若手地方政府職員  
 参加資格：下記(1)～(3)の全ての要件を満たす者

- (1) (主催者が直接に募集を案内している) 大学、または地方政府からの推薦があること  
 (2) 日本語による大学レベルの講義やグループ討議、レポート作成等への対応が可能であること  
 (3) 全日程(13日間)に参加可能であること

参加費用：無料。宿泊費(朝食付き)、昼食費(※自習日等除く)、講義や各地域への視察研修、体験学習等にかかる費用は、主催者負担。ただし、以下については自己負担となります。

- 居住地から会場まで(海外からの受講生については関西国際空港まで、国内からの受講生については奈良市内の集合場所まで)の経費(往復)
- 期間中の夕食費、自習日の昼食費、個人的な飲食費・交通費、土産品の購入費等

留意事項：①研修期間中の盗難、紛失、事故等については、主催者は責任を負いません。  
 ②海外からの受講生は、事前に海外旅行傷害保険等に加入(※自己負担)してください。  
 ③開講式およびウェルカムパーティー、修了式およびフェアウェルパーティーには、スーツまたはこれに類する服装をお願いします。(※特別な正装までの必要はありません)  
 その他、講義やホームビジット(※一般家庭を訪問し、日常生活そのままに交流する)についても、露出の多い服装は控える等、研修中であることを心がけた服装をお願いします。  
 ④研修期間中は記録のため写真撮影等を行います。  
 記録誌やホームページ等で活用しますのでご了承ください。

# 2. カリキュラム概要

東アジアを中心とした様々な地域から参加される受講者のみなさんと共に、次の学習目標に向けたカリキュラムを展開します。

【学習目標】  
**東アジアの「共通性」や「関係性」に気づき、幅広いリベラルアーツを学ぶ**

- 講義** (90分×15回)  
 歴史、文化、観光、政治、社会保障、環境、医療ほか様々な分野の著名な講師陣による講義を聴講し、自らの知識を広げ、グループ討議や成果発表につなげます。
- グループ討議** (120分×5回)  
 1日の講義の終了後に、ファシリテーターの進行のもと、受講生同士でディスカッション・発表を行います。意見を交わし学び合いながら、交流を深めていきます。
- 視察研修  
ホームビジット** (2日)  
 新たな気づきを得たり、奈良県の魅力再発見につながるプログラムとして、専門機関の協力による視察研修と、一般家庭のご協力のもと食事等の交流をするホームビジット体験を行います。
- 成果発表  
(プレゼンテーション)**  
 少人数のグループ毎にテーマを設定し、受講期間中に議論した内容を、成果として発表します。発表した成果物等は、記録誌やホームページ等に掲載させていただきます。

### 3. カリキュラム日程 (予定)

1日目	8/18 (日)	来日・来県	集合	オリエンテーション①	宿泊			
2日目	8/19 (月)	オリエンテーション②	昼食	オリエンテーション③	開講式	ウェルカムパーティー	宿泊	
3日目	8/20 (火)	講義	講義	昼食	講義	グループ討議	自習	宿泊
4日目	8/21 (水)	視察研修①	昼食	視察研修②	自習	宿泊		
5日目	8/22 (木)	講義	講義	昼食	講義	グループ討議	自習	宿泊
6日目	8/23 (金)	講義	講義	昼食	講義	グループ討議	自習	宿泊
7日目	8/24 (土)	視察研修③	昼食	ホームビジット体験	自習	宿泊		
8日目	8/25 (日)	講義	講義	昼食	講義	グループ討議	自習	宿泊
9日目	8/26 (月)	講義	講義	昼食	講義	グループ討議	自習	宿泊
10日目	8/27 (火)	自習日 (自由時間)						宿泊
11日目	8/28 (水)	成果発表制作	昼食	成果発表制作	宿泊			
12日目	8/29 (木)	発表準備・リハーサル	昼食	成果発表会	交流会 修了式	フェアウェルパーティー	宿泊	
13日目	8/30 (金)	解散 (帰国)						

※講師の都合等により変更となる場合があります。予めご了承ください。



ホームビジット体験

視察研修

## 4. 参加申込について

---

主催者が直接に募集を案内している大学・地方政府から、下記提出書類を奈良県立大学東アジア・サマースクール事務局に郵送、もしくは電子メール（書式ファイルを添付）により提出してください。

(1) 申込み締切

**2019年6月21日（金）※消印有効**

(2) 提出書類 ※①②ともに、日本語で記載すること。

- ① 主催者が直接に募集を案内している大学、地方政府からの推薦書（別添様式）
- ② 東アジア・サマースクール受講生候補者個票

★電子メールで申込をする場合の注意事項

全ての書類を、PDF もしくは Excel 形式にしてください。

(3) 受領確認通知メール

奈良県立大学東アジア・サマースクール事務局で受領後、3日以内に電子メールで受領確認の通知を行います。

(4) 送付先、問い合わせ先

奈良県立大学東アジア・サマースクール事務局  
〒630-8258 奈良県奈良市船橋町10番地  
E-Mail : summer-school@narapu.ac.jp

※提出書類は、選考の結果に関わらず返却しませんので、あらかじめご了承ください。

(5) 募集人数

おおむね45名。なお、受講希望者が多数にのぼった場合は、主催者において調整する場合があります。

## 5. 提出書類の取扱いについて

---

【個人情報の利用目的・取扱い】

収集した応募者の個人情報は、以下の目的で利用します。なお、収集した個人情報は大学において適切に管理いたします。

- 受講者の選考および事業実施のため
- 「東アジア・サマースクール」に関連する情報の提供や連絡等のため
- 「東アジア・サマースクール」にかかる統計、データ分析のため

## 6. 受講決定の通知について

---

2019年7月上旬を目途に、推薦いただいた大学、または地方政府宛てに、受講の可否を通知します。

※研修の実施に支障が生じるため、受講が決定した後は参加をキャンセルすることのないようご協力願います。

# 「東アジア・サマースクール2019」講師紹介



【交通と観光】  
岩村 敬（元国土交通事務次官、奈良県立大学客員教授）

東京大学法学部卒。運輸省（当時）入省後、航空局長、運輸政策局長、国土交通省総合政策局長などを経て、2004年国土交通事務次官、2005年退官。その後、(財)港湾近代化促進協議会会長、慶應義塾大学環境情報学部教授、東京大学公共政策大学院特任教授、(株)損害保険ジャパン顧問、関西電力(株)顧問、関西国際空港(株)取締役会長を歴任。現在、(一財)環境優良車普及機構会長、(公財)交通エコロジー・モビリティ財団会長などを兼ねる。



【文化】  
岡本 彰夫（奈良県立大学客員教授、前春日大社権宮司）

1954年奈良県生まれ。國學院大學文学部神道科卒。春日大社に奉職。春日大社では殊に祭儀の旧儀復興に尽力し、恒例御神楽や春日若宮おん祭の御旅所祭などの故実並びに古式神饌等の古儀復興、社伝神楽の廃絶曲の復元、三句奏楽の復興等、数々の神事を本儀に復すとともに、式年造替においては、明治維新时期に失われた儀式を平成7年の第五十九次式年造替でほぼ完全な形に復興させた。2016年より現職。

<主な編著書等>『大和古物散策』（2000年）、『大和古物拾遺』（2010年）、『神様が持たせてくれた弁当箱』（2015年）、『大和のたからもの』（2016年）、『道歌入門』（2018年）等



【思想】  
小倉 紀蔵（京都大学大学院教授）

東京大学文学部ドイツ文学科卒、ソウル大学校哲学科博士課程単位取得。専門は東アジア哲学、韓国思想、韓国文化社会論など。NHKテレビ・ラジオ「ハングル講座」講師、外務省「日韓友情年2005」実行委員、「日韓交流おまつり」実行委員、「日韓文化交流会議」委員などを歴任。

<主な編著書等>『歴史認識を乗り越える』（2005年）、『創造する東アジア 文明・文化・ニヒリズム』（2011年）、『東アジアとは何か〈文明〉と〈文化〉から考える』（2012年）、『新しい論語』（2013年）、『朝鮮思想全史』（2017年）



【国際協力】  
北岡 伸一（独立行政法人国際協力機構（JICA）理事長、公立大学法人奈良県立大学理事長）

東京大学法学部卒。東京大学大学院法学政治学研究科博士課程修了（法学博士）。立教大学法学部教授、東京大学法学部教授、日本政府国連代表部次席代表、政策研究大学院大学教授、東京大学名誉教授、国際大学学長、政策研究大学院大学特別教授などを経て現在に至る。2011年に紫綬褒章を受賞。専門は日本政治外交史。

<主な編著書等>『グローバルプレイヤーとしての日本』（2010年）、『外交的思考』（2012年）、『日本政治の崩壊 第三の敗戦をどう乗り越えるか』（2012年）、『官僚制としての日本陸軍』（2012年）、『門戸開放政策と日本』（2015年）等



【教育】  
佐藤 禎一（桜美林大学特別招聘教授）

1941年生まれ。京都大学法学部卒業。博士（政策研究大学院大学）。文部省（当時）入省後、文化庁次長、学術国際局長、大臣官房長などを歴任し、1997年に文部事務次官、2000年退官。その後、同年に日本学術振興会理事長、2003年日本国政府ユネスコ代表部特命全権大使、2007年東京国立博物館長などを務め、2009年より政策研究大学院大学参議・客員教授を務めた。

<主な編著書等>『文化と国際法－世界遺産条約・無形遺産条約と文化多様性条約』（2008年）

【社会保障】

島崎 謙治（政策研究大学院大学教授）



1978年東京大学教養学部卒業後、厚生省（当時）入省。厚生労働省保険局保険課長、国立社会保障・人口問題研究所副所長、東京大学大学院法学政治学研究科附属比較法政国際センター客員教授等を経て、2007年から現職。博士（商学）。長野県立病院機構理事、日本医療・病院管理学会評議員、社会保障審議会医療部会委員。

<主な編著書等> 『日本の医療一制度と政策』（東京大学出版会、2011年）、『医療政策を問いなおすー国民皆保険の将来』（筑摩書房、2015年）、The Path to Universal Health coverage: Experiences and Lessons from Japan for Policy Actions (JICA, 2013)。

【経済政策】

田中 修（財務総合政策研究所特別研究官（中国研究交流顧問）、奈良県立大学地域創造学部特任教授、日本貿易振興機構（ジェトロ）アジア経済研究所 新領域研究センター 上席主任調査研究員）



東京大学法学部卒業後、大蔵省へ入省。博士（学術、東京大学）。在中国日本国大使館経済部に1等書記官・参事官として勤務。帰国後、主計局主計官、信州大学経済学部教授、内閣府参事官、東京大学客員教授、財務総合政策研究所副所長、国税庁税務大学校長を歴任。2017年に退官し現在に至る。専門は現代中国経済、中国のマクロ経済政策。

<主な編著書等> 『検証 現代中国の経済政策決定』（2007年）、『中国経済はどう変わったかー改革開放以後の経済制度と政策を評価するー』（2014年）、『スミス、ケインズからピケティまで 世界を読み解く経済思想の授業』（2015年）、『2020年に挑む中国 超大国の行方』（2016年）、『日本人と資本主義の精神』（2017年）等

【環境】

田中 克（京都大学名誉教授、舞根森里海研究所長）



京都大学大学院農学研究科博士課程修了。西海区水産研究所研究員、京都大学大学院農学研究科教授、京都大学フィールド科学教育研究センター長、マレーシアサバ大学ボルネオ海洋研究所客員教授などを経て、2009年よりNPO 法人森は海の恋人理事、2011年より文部科学省東北マリンスাইエンス拠点形成事業主査（2016年まで）、2014年4月より舞根森里海研究所長、2015年よりNPO法人SPERA森里海理事代行、2017年より（一社）全国日本学士会理事等を務める。

<主な編著書等> 「森里海連環学への道」（2008年）、「稚魚ー生残と変態の生理生態学」（2009年）、「水産の21世紀」（2010年）、「森里海連環学」（2011年）、「森里海連環による有明海再生への道」（2014年）、「森里海を結ぶ（1）いのちのふるさと海と生きる」（2017年）、「森里海を結ぶ（2）女性が拓くいのちのふるさと海と生きる」（2017年）、「生命文明の時代」（2019年）等

【歴史】

田辺 征夫（（公財）大阪府文化財センター理事長、（一財）仏教美術協会理事長）



慶應義塾大学文学部卒業。文化庁美術工芸課主任文化財調査官、東京国立博物館学芸部考古課長、奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部長、独立行政法人国立文化財機構理事奈良文化財研究所長、奈良県特別顧問、奈良県立大学特任教授などを歴任。

2015年秋の叙勲で瑞宝小綬章を受章。

<主な編著書等>

『歴史考古学大辞典』（2007年）、『古代の都2平城京の時代』（2010年）等

【情報】

美濃 導彦（理化学研究所理事、前京都大学副理事）



京都大学工学部情報工学科卒業。同大学院博士課程修了。京都大学工学部教授、マサチューセッツ州立大学客員研究員、京都大学学術情報メディアセンター長、同大情報環境機構長などを経て現在に至る。専門分野は情報学、知能情報学。

<主な編著書等> 『情報メディア工学』（1999年）、『画像処理論：Web情報理解のための基礎知識』（2014年）等

【観光】

**山田 桂一郎 (JTIC.SWISS代表、奈良県立大学客員教授)**



1965年三重県生まれ。「世界トップレベルの観光ノウハウを各地に広めるカリスマ」として内閣府・国土交通省（観光庁）・農林水産省が認定（2005年）する観光カリスマ。スイス・ツエルマットやヴァレー州政府等の観光局における日本・アジア向けマーケティング担当のほか、JTIC.SWISS（日本語インフォメーションセンター：1992年設立）代表、NPO法人日本エコツーリズム協会理事（2004年）を務める。欧州とアジアを中心に環境保全・利活用を推進してきた環境カウンセラー（環境省1996年事業者部門、2003年市民部門登録）でもあり、地域力創造アドバイザー（2010年総務省）、地域活性化伝道師（2015年内閣府官房）、クールジャパン地域プロデューサー（2016年内閣府官房）など、幅広い方面で活躍する。

【国際交流】

**Ranasinghe Nirmala (ラナシカ・ニルマ) (奈良県立大学地域創造学部講師)**



スリランカ出身。博士（観光学）立教大学観光学博士課程後期課程修了。東京外国語大学非常勤講師などを経て、平成29年度より奈良県立大学専任教員として勤務。持続可能な観光、持続可能な開発や主に観光の場を出会いとする国際結婚・国際移住、多文化交流に着目した研究が専門。

【国際政治】

**李鍾元 (早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授、早稲田大学韓国学研究所長)**



韓国生まれ。東京大学大学院法学政治学研究科修了（法学博士）。専門は国際政治学、東アジア国際関係論。東北大学法学部助教授、立教大学法学部教授、米国プリンストン大学客員研究員、朝日新聞アジアネットワーク客員研究員などを歴任し現在に至る。

<主な編著書等> 『東アジア冷戦と韓米日関係』（1996年、大平正芳記念賞、米国歴史家協議会外国語著作賞など受賞）、『戦後日韓関係史』（2017年）、『東アジア 和解への道』（2016年）、『国際政治から考える東アジア共同体』（2012年）

【東洋医療】

**渡辺 賢治 (慶應義塾大学医学部漢方医学センター 客員教授)**



慶應義塾大学医学部卒、医師・博士（医学）。奈良県顧問、神奈川県顧問。慶應義塾大学医学部内科、東海大学医学部免疫学教室助手、米国スタンフォード大学遺伝学教室ポストドクトラルフェロー、北里研究所（現北里大学）東洋医学総合研究所、慶應義塾大学医学部東洋医学講座（現：漢方医学センター）准教授、環境情報学部教授・医学部兼任教授、大学院政策・メディア研究科教授などを経て現在に至る。日本内科学会内科専門医、日本東洋医学会専門医・WHO国際疾病分類改訂委員、漢方産業化推進研究会理事長 等を兼ねる。

【比較文化】

**王 敏 (法政大学教授、国立新美術館評議員)**



比較文化学、国際日本学、宮沢賢治研究。宮沢賢治をはじめ日本の傑作を中国に翻訳・紹介すると同時に、『紅樓夢』など中国の名作への翻案を100余冊、日本で発刊している。近年、日本における治水神禹王信仰の現存形態及びシルクロード文化、周恩来ら中国指導者の日本留学に関する調査研究を究めている。2009年に文化長官表彰。

<主な編著書等> 『禹王と日本人』（NHK BOOK）、『周恩来たちの日本留学』（三和書籍）、『日本と中国』（中公新書）など。

## ～「東アジア・サマースクール」参加者からのメッセージ～

私はサマースクールに大学入学前から参加したいと考えていました。私はこの13日間に日韓中の歴史や政治、伝統についての講義を受け、討議を行いました。討議を進める中で私は各国の報道には真偽に違いがあることを知りました。また、成果発表では日韓中の仏像について調べ、限られた時間内で睡眠時間を削る日もありました。しかし、完成した時には今までに感じたことのない達成感がありました。サマースクールの後も定期的に会うことができ、かけがえのない友達ができえました。13日間大変でしたが、すごく充実した日々を過ごすことができました。今後、私たちが出会い、仲良くなれたように東アジアの国際交流がさらに深まることを願います。

【井上 美穂（日本：畿央大学）】



私がサマースクールに参加した理由は、留学志望があり留学への第一ステップになると思い参加しました。はじめは不安でドキドキしましたが、とてもいい経験になったと思います。各国の方と授業を受講し、様々な分野について学ぶことができました。また、視察体験では、奈良県についての歴史を知ることができ、改めて奈良県の良さ、日本の良さを学べたと思います。私はサマースクール後に、留学へ行くことが決まりました。サマースクールで体験したことや、日本とは異なる習慣・文化・歴史、世界から見る日本をしっかり勉強し、成長したいと思っています。【檜垣 舞衣（日本：奈良大学）】

2週間にわたったサマースクールは私にとって今までで最も貴重な経験だと思っています。東アジア各国から奈良に集まり、文化や政治など様々な分野の講義を受け、相違点などについて勉強し考える機会を得ることができました。毎日講義終了後、チームメートと議論し発表の準備をしたのも楽しかったです。講義以外にも東大寺への視察やホームビジット体験など本当に素晴らしかったです。日本人の住むところに訪問したのは初めてでした。日本語が下手な私の話しを皆さんとても親切に聞いてくれました。本当に感謝しています。たくさんの友達ができ今後も連絡が絶えないように交流したいと思います。とても有意義な時間を過ごすことができました。

【康麗麗（中国：上海師範大学）】



このサマースクールで私は、非常に良質な生きた知識を得ることができました。私の考える生きた知識とは、一問一答的に現れるような単なる知識ではなく、あらゆる問いに対して転用可能であり、また、問いを新しく生み出すことも可能にするような知識を指します。このサマースクールでは、多岐にわたる分野の第一線で活躍されている方々から学ぶことができ、その学びについての討論の場も設けられています。そして、その討論のメンバーは東アジア各国から集まった人達であり、議論の深まりも、想像をはるかに超えてきます。これらの取り組みが、私の中に生きた知識を与えてくれました。しかし、このことはサマースクールの、ほんの一側面にすぎません。次代の皆さんには、ぜひとも積極的な行動をしてもらいたいです。得ることの多さに、驚愕するはずです。

【有川 周志（日本：宮城大学）】

参加者に優しい企画、私にとって東アジアサマースクールは皆さんと親しくなりやすく、また貴重な講義を聞ける時間が沢山ありました。自分なりの時間の過ごし方を作ってください！心を開けて講義を聞いてください！皆さんが思った以上の事がここにはあります！是非、参加してみてください！

【キムミンファン（韓国：東洋大学校）】



サマースクールを機に、歴史や文化の知識を得ることができました。各国からの受講生で討論し、一緒になって資料を集め、成果発表をしました。限られた時間でしたが、グループの皆で心を込めて作成し、チームワークの大切さも学びました。世界遺産である東大寺や唐招提寺への視察、ホームビジット体験も面白かった。ホストファミリーの方は優しく皆嬉しくて沢山の話をし、古風な建物のなか日本料理の食べることもできました。毎日一緒に歩いて通学しましたので、日本語も徐々に上手になりました。たくさんの友達もでき2週間で沢山の思い出をつくることができました。きっと今回の研修は忘れられません。【李思吟（台湾：開南大学）】

あっという間に13日間が終わりました。期待以上に得たものは多くありました。様々な分野の貴重な講義を受講し、また、東大寺や万葉文化館等の視察体験を通じて、奈良の歴史をよく知ることができ、本当によかったです。そして、東アジア各国の友達と交流し、遊びに行ったり沢山の笑顔をすることができました。しかし、涙もありました。それは、別れる時の涙でした。お世話になったり、支えていただいた皆さんのおかげで、有意義な夏休みを過ごしました。心の底から感謝申し上げます。皆さんとの出会いは私の「一期一会」です。サマースクールに参加したことを誇りに、これからの取組も頑張っていきたいと思っています。

【チャン・ティ・トム（ベトナム：静岡県立大学留学生）】

